

地域の環境整備から基幹産業へ活力を

〜若者会の運営体入り実現〜

神代地域運営体は、昨年9月に設立され、現在、生活環境支援部、福祉支援部、産業振興支援部、伝統文化支援部の4部門を柱に活動しています。

運営にあたっては、正副会長、支援部正副部長と理事で構成された役員会が決定機関です。常に合議制のもとに支援部ごとに計画から実施まで、5年先を見越した計画で精力的な活動を展開しているところです。

また、この運営体制の今後さらなる充実、発展をしていくことを切に願っているところでもあります。



自主防災マップを作成し、自主防災意識の向上をめざします。

『生活環境支援部』では防災マップの作成に着手しています。

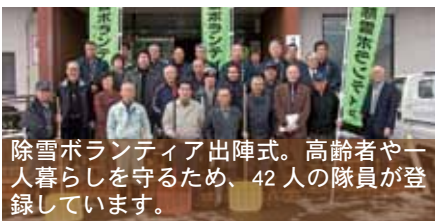
「神代は集落が点在し、面積も広い」と細川会長。自分たちの地域は自分たちで守ろうという意識の高まりを感じます。

『産業振興支援部』では、昨年、冬がっこコンクールや山の芋創作料理コンクールを行い、大いに盛り上げりをみせていました。

神代の基幹産業は農業。農家に活力が戻るように時間をかけてやり遂げていきたいとの思いで、今年度も地産地消を軸として地域の活性化をめざします。



冬がっこコンクール。45人から112点の出品がありました。



除雪ボランティア出陣式。高齢者や一人暮らしを守るため、42人の隊員が登録しています。

『福祉支援部』の冬の一大事業、除雪ボランティア。昨年のような豪雪では除雪作業も一苦労です。ボランティア隊を登録制にし、40人以上が高齢者や一人暮らしの家庭の除雪活動を行いました。

今年度はより充実し、行政とも連携した活動を行います。



神代小学校児童からデザインを募集し、案内看板を作成。「活力ある神代の創造」のシンボルとしての役割も担います。

『伝統文化支援部』では、地域の伝統文化財産の発掘と保護、継承を担っていきます。梅沢ささらの獅子頭の修復も終え、これからが本番です。

若者会も参加し次世代へ

地域の運動会を復活させたいとの話しから若者会（神友会）が運営体の活動に参加。「他ではなかなかないと思う」と嬉しそうに話す細川会長は、「若い人たちを育てて、次のバトンを渡すことも任務とと思っている」と語ってくれました。



会長 細川俊雄さん

「今の地道な活動が数年後、今の数倍もの効果を生むと信じている」